

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577700226		
法人名	医療法人 健仁会		
事業所名	グループホーム風花		
所在地	山口県山陽小野田市桜一丁目3番1号		
自己評価作成日	平成28年7月20日	評価結果市町受理日	平成28年12月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成28年8月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「皆に優しく 共に楽しく」地域の中でいつまでも自分らしく生活していける・・・を理念とし、地域の方との関わりを大切にしています。今では運営推進会議参加の皆様やご家族、30分ボランティア、近隣自治会から年間を通して延べ120名の方々が、風花に来て下さっています。花壇のバラが咲きほころぶ頃に開催する花祭りでは、自治会・婦人会の方が中心となり餅つきをして下さり、いつも大人気で完売しています。昨年11月には、家族と地域の方が中心で、有事に備えて風花・ご家族・地域の緊急連絡網が出来、自助・共助の体制が整いました。「緊急時だけでなく風花の為にできることがあれば集まりませんか」と連絡網を使い、風花苑庭の草取りをして下さいました。いつも沢山の方が風花の事を気にかけて下さっています。利用者様と馴染みの関係が築け、市民運動会・夏祭り・お大師様・お雛様めぐり・どんど焼き・健康祈願祭等、四季折々のご案内があり、利用者様と一緒に掛ける機会が多くあります。年3回の家族会では納涼祭・クリスマス会・日帰り旅行等を開催。前年度家族会には、ご家族・地域の方53名の参加があり、利用者様は皆様と和やかな時間を楽しまれています。毎月、ご家族へ郵送している風花メールは、「母が楽しく過ごせているのがよくわかり、届くのが楽しみです」と喜んで頂いています。帰宅願望の強い利用者様へ、理念・ケアの4つの柱を指針として実践した日々の関わりは、職員のやりがいやスキルアップに繋がっており、7月の法人内研修で取り組みを発表しました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議で地域との緊急連絡網について検討されて、避難訓練に参加された自治会長や家族の他、30分ボランティア、婦人会、民生委員、僧侶、第三者委員が加入された緊急連絡網を作成しておられ、事業所の行事案内等にも活用されて、地域との協力関係づくりの充実に取り組まれています。事業所の畑で採れた野菜を使って、利用者や職員と一緒に味噌汁をつくられたり、盛り付けをされて、利用者と職員は、同じ食卓を囲んで同じものを食べておられ、ボランティアの協力を得られて、いぎの菓団子づくりや台湾かき氷、チョコレートパフェ等のおやつづくりや梅やしそ、ヤマモモ等のジュースづくりをされたり。家族の協力を得た外食など、食事が楽しみなものになるように支援しておられます。年間に行われる外部研修の情報を収集され、職員の段階や希望に応じて受講できる機会を多く提供されています。法人研修では、法人内の各施設の研究発表や応急手当の研修、資格取得研修等に毎月職員が参加しておられるなど、職員を育てる取り組みの充実を図っておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念・ケアの4つの柱をスタッフルームに掲示。名札の裏には記載した物を入れており、いつでも目に入るようにしている。朝礼や会議の時に皆で唱和し利用者様との関わり方について意識し業務に当たっている。毎月行われている接遇研修に年に一回は参加できるようにシフトを調整し、理念やケアの4つの柱の意味をしっかりと学ぶ機会がある。全員が理念に沿った月目標をあげ、自分なりに理念の取組を実践している。職員みんなで理念を基に利用者様の支援に取り組み、7月の法人内研修で発表した。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念とケアの4つの柱を事業所内に掲示して、朝礼時や月2回のユニット会議時に唱和している。毎月実施している法人の接遇研修に参加して理念について学んでいる他、職員は事業所理念に基づいて各自で介護目標を掲げ、日常の業務の中で確認し、共有して理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	30分ボランティアの呼びかけを始めて6年経ち昨年度は延べ120人程度の方が風花へ来て下さっている。野菜づくり・季節のおやつ作り・お祭りの手伝いや利用者様の話し相手等、色々なかたちで利用者様の生活を職員に加わってして下さっている。顔見知りとなられ利用者様にとっても馴染みの関係が築けてきている。今では、ボランティアの方同士で話し合っって日時を決め苑庭管理にて来て下さっている。地域のお祭りや文化祭・運動会、老人会の催し等のご案内も頂き出かける機会もある。「ヤマモモがなってます。採りに来られませんか」と毎年ご案内もある。	自治会に加入し、職員は地域の清掃作業に参加している。行事予定や30分ボランティアの内容を掲載している事業所の「お知らせ新聞」を配布し、参加を呼びかけている。利用者や職員と一緒に地域行事(市民運動会、夏祭り、出合ふれあい祭り、市の敬老会、老人会主催の健康祈願祭など)に出かけている。法人主催の納涼祭や紫苑祭などに家族や地域住民の協力がある。ボランティア(清掃、傾聴、草取り、野菜づくり、茶会など)の来訪や中学生の職場体験、福祉専門学校実習生などを受け入れている。認知症サポーター養成講座やAED使用等の訓練を地域の人と実施している。近所の人からヤマモモの収穫や芋掘りの誘いがあり、利用者や職員と一緒に出かけている。散歩時の見守りや声かけがある他、野菜や果物などの差し入れがあり日常的に交流している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や来苑時に、急変時の不安や対応について質問があったことから、誤嚥時の対応や意識の確認・心肺蘇生やAED使用までの流れ等、風花勉強会用の人形やAEDを使って地域の方と訓練をしている。6月には地域包括支援センターから来てもらって、認知症サポーター講座を開催した。地域の方やご家族が参加され理解を深め意見交換をした。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	4月に自己評価や外部評価の勉強会を実施。その後、自己評価に取り組んでいる。経験が浅く自己評価の項目の内容について理解が出来ない職員には管理者やリーダーがアドバイスすることで理解できるようにしている。職員全員で取り組み、現任職員は1年間のケアの見直しを、新人職員は一緒に取り組むことで認知症ケアの理解を深めることを目的としている。自己評価をしたことで実践の見直しになっている。担当者が中心となり帰宅願望の強い1名の利用者様の支援にスポットを当て、皆で取り組みをしている。	評価について内部研修を実施し、管理者とリーダーは意義について職員に説明している。自己評価をするための書類を全職員に配布して記入してもらい、職員間で話し合っ、管理者とリーダーでまとめている。職員は自己評価をケアの振り返りと捉えている。外部評価結果を受けて、消防署の救急救命講習の受講(5名)や月1回の法人の応急手当の研修への参加、内部研修で事故対応、感染症、救命講習を実施するなど、具体的改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者様情報・風花メール・お知らせ新聞・またその折々に懸案事項として議題を上げ報告し、意見交換をしている。自治会の方と災害時の協定を結んでおり、毎年避難訓練にも参加して下さっている。会議に参加の自治会長とご家族が中心となり、風花を支える緊急連絡網を作って下さったことで訓練だけでなくボランティアの輪が広がった。地域の方の理解とご協力がある事にご家族は喜ばれている。会議の中で介護予防の話題になったことで、地域包括が取り組んでいる介護予防研修の案内につながり職員が参加するようになった。	会議は2ヶ月に1回開催し、利用者の状況、サービス提供報告、避難訓練、地域の緊急連絡網、ヒヤリハット、事故報告等について報告をし、話し合っている。地域の方の参加を得て認知症サポーター養成講座や試食会も実施している。避難訓練に参加した自治会長と家族を中心に、第三者委員、民生委員、老人会、婦人会などのメンバーが加入する緊急時の連絡網を作成しているなど、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市職員の出席があり、地域の方から介護保険の手続きや市の仕組みなどの質問に答えている。実地指導の折には資料の相談やシフト作成のアドバイスがあり、法人グループが集まりそのことについて勉強会をした。職員と顔なじみとなり相談しやすい関係作りができています。社会福祉協議会から登録ボランティア受け入れ施設の案内があった。認知症支援ネットワーク会議に出席しており意見交換の場となっている。	市担当者とは、運営推進会議の他、出向いで相談や情報交換をしたり、市主催の研修会等の参加時や電話、メールなどでも情報交換をして協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議での認知症サポーター養成講座や介護予防研修への協力や利用者状況等についての情報交換をするなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人でマニュアルがある。毎年、マニュアルに沿った内容で勉強会をしており、身体拘束について繰り返し学ぶ機会がある。現在、帰宅願望が強い利用者様が数名おられる。他利用者様の介助中だけ一時的に玄関の施錠をしていたが、拘束ゼロを指針として玄関が開いたときにメロディーが鳴るセンサーを新しく付ける等、ハード面の工夫をした。職員は音で利用者様の出入りが把握出来る事で、利用者様はご自由に畑の野菜や花の観賞をされている。離苑が心配される利用者様への支援の取り組みを具体的に決め皆で取り組んだ。	法人のマニュアルに沿って内部研修をして、日常業務の中で確認して、身体拘束をしていないケアに取り組んでいる。スピーチロック気づいたときは、管理者やリーダーが指導している他、職員同士でも注意し合っている。玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルがある。法人の研修や風花勉強会で虐待とはどのような事なのか具体的に例をあげ説明があり、高齢者虐待防止関連法も含め学んでいる。勉強会に参加できなかった職員は報告書と資料を回覧で見て理解し実践に繋げている。日ごろより、言葉遣いがスピーチロックになっていないか職員間で気をつけている。管理者やリーダーは常に職員の利用者様の関わり方をみて、気になる言葉遣いなどがあった時には話し合って予防に繋げている。尊厳を傷つけない言葉づかいに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度・権利擁護についてのファイルがスタッフルームに置いてあり、いつでも閲覧できるようにしている。一年に1回、風花勉強会で学ぶ機会がある。昨年、成年後見制度を利用されている利用者様が入居された。家族会の案内や風花メール等はご家族へ、郵便物や請求関係の書類などは成年後見人へお送りし連携をとっている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要事項説明書及び契約書をもとに、時間をかけ丁寧に説明をしている。不安に思うこと、疑問に思うことはその都度お聞きしお答えしている。納得していただいて同意を頂いている。介護保険や介護給付の改訂時には、前もって文章にてお知らせし同意を頂いている。問い合わせなどには理解されるまでしっかり説明をしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に重要事項説明書にて要望・相談窓口、第三者委員の設置についてお伝えしている。玄関入り口に要望箱を設置し定期的に確認している。ご家族に向けアンケートを実施し要望やご意見を聴く機会としている。面会時にも要望などをお伺いする機会としている。要望や相談があった時には要望書としてあげ、管理者やリーダーの判断で解決することがあるが、ユニット会議で職員間で意見交換をし、ハード面の改善や利用者様の支援につなげている。アンケート結果はご家族や運営推進会議出席者にも集計表で報告している。	相談、苦情受付体制や第三者委員、処理手続きについて契約時に家族に説明している。面会時や運営推進会議時、年3回の家族会行事(花祭り、納涼祭、クリスマス会)への参加時、年1回の家族アンケートなどで、家族の意見や要望を聞いている。事業所だよりや個別の写真と利用者が書いたポストカードを送付して意見や要望を言いやすいような工夫をしている。運営に反映するまでの要望や意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のユニット会議・月1回の合同会議がある。会議は出勤職員が司会進行しており、意見が言いやすい環境で会議が出来ている。管理者やリーダーは職員の意見を聞く機会となっている。職員の意見からユニット毎で利用者様への支援の方法や業務の見直している。管理者やリーダーは職員から出た意見や提案を、代表参加のリーダー会議で要望としてあげ、テーブルやソファの購入やお風呂のリフォームをするなどの意見を聞いてもらえる機会がある。	月2回のユニット会議、月1回の合同会議時に職員の提案や意見を聞く機会を設けている他、管理者やリーダーは日常業務の中でも意見や提案を聞いている。提案や意見が出た場合は、代表者が参加するリーダー会議で検討している。利用者の状態に応じての職員の休憩時間の変更や浴室のリフォーム、ソファの購入など、意見や提案を反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的にノー残業デーを設けている。毎年職員一人ひとりにやりがいとなる様に係りをもち、一年を通して取り組んでいる。希望休はなるべく添えるようにシフトの調整をし、働きやすい環境に努めている。法人の勉強会はポイント制で手当がつき、自主的に参加している。資格を取るとそれぞれに資格手当がつくことで資格取得を目指す職員がいる。今年是一名介護福祉士合格。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	風花の勉強会、外部の研修会に参加する機会をつくり、スキルアップに繋げている。勉強会や研修後は報告書と資料を回覧し、参加出来なかった職員も学べる機会としている。新人職員には管理者が経験と知識のある職員を選びプリセプターに指名し、3ヶ月かけて「ケアの見直し表」を基に一緒に取り組むことで基本姿勢を学べるようにしている。法人内研修として、利用者様への支援や事業所の取り組みを発表する機会があり、7月にパワーポイントでまとめたものを発表した。風花勉強会は年間計画をたて順番に職員が講師として活躍している。	外部研修は職員に情報を伝え、段階や希望に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は資料と研修報告書を回覧して職員間で共有している。今年度はセンター方式、実践者研修等に参加し、スキルアップにつなげている。法人研修は月1回の応急手当等の研修、接遇、各施設の研究発表の他、資格取得研修に職員は参加している。内部研修は年間計画を作成し、職員が順番で講師を務め、評価の目的、事故発生予防と再発防止、看取り、理念、身体拘束、普通救命講習等を実施している。新人研修は法人で5日間の研修後、事業所の指導担当職員が3ヶ月間、日常業務の中で指導し、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や交流会へ参加し、情報交換をおこなっている。他グループホームの見学に行く機会をつくり、利用者様への日常支援の工夫・行事・地域交流などについて学び、サービスの見直しにいかしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学に来て様子を見て頂いている。その時にお茶を出すなどして、利用者様や職員とゆっくり話ができるような雰囲気の中で不安に思うことや要望をさり気なく伺いするようにしている。居室はご家族に協力して頂き、ご自宅で使用されていた馴染みのある物を持って来て頂いたり、面会時にゆっくり過ごせるようにし、ご本人の思いにそって家具の配置に努め、お部屋作りをしている。担当職員を決め馴染みの関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みは法人の相談員が丁寧に対応している。入居前に風花の見学をしていただいている。その際に、管理者は必要資料を準備し詳しく説明できるように準備している。ご家族が不安と感じておられる事や要望などを伺い、安心してサービスが受けられようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談員・管理者・ケアマネが連携し、利用者様とご家族の想いに添って支援が出来るように基本情報を基にアセスメントしている。利用前の見学や契約の時に、歯科医師による口腔ケアや他科受診について説明し、利用できるように支援している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お膳拭きや洗濯物たたみ、厨房へ食事を取りに行くことがご自分の役割とされている利用者様がおられる。男性利用者様も一緒に下さっている。職員は利用者様と野菜の世話をする中で、畑の肥料のやり方や芽のかぎ方、水やりのタイミング等を教わりながら一緒に野菜を育て、収穫をしている。若い頃にデパート勤めをされ、接遇について学んでおられる利用者様から、新人職員へ言葉遣いのアドバイスがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月風花メールやポストカードをお送りご様子をお伝えしている。時には利用者様がポストカードにご自分でメッセージを書かれることもある。遠方におられるご家族が面会に来られた時に、利用者様の居室に一週間程度泊まれ一緒に過ごしておられる。ご家族と一緒に外出や外泊をされる折には普段の様子をしっかり伝え、安心してお出かけが出来るようにしている。携帯電話の充電が切れないように注意しご家族といつでも話ができるようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を制限しておらず、いつでも面会が出来るようにしている。仕事帰りに寄られお話をされる方もおられる。また昔からのご友人や知人、教え子様が訪ねてこられた時には、居室や談話室にご案内しゆっくりとお話ができるようにしている。はがきや写真、手紙が届くことがあり、職員が横につきお返事が出せるように支援している。お孫さんの結婚式やご親族の法要、毎年誕生日にご家族でいつも食事に行かれていた所へ、今回はスタッフも付添い出かけられ一緒にお祝いをした。	家族の面会、親戚の人、友人、知人、教え子の来訪がある他、電話の取り次ぎ、年賀状、絵手紙、ポストカードでの交流の支援をしている。家族の協力を得ての外食、外泊、盆正月の一時帰宅、墓参り、法事への出席、結婚式への出席、馴染みの店での誕生日会など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、気の合う方と座って頂けるようにテーブルの席を配置している。ソファで話されたり、洗濯たたみ・お膳拭き等座ってできる事や、トランプや歌などの楽しみごと誘い合って利用者様同士が共に楽しめる場面を作っている。コミュニケーションをとる事を苦手とされる利用者様には、職員が横に行き話相手となり寂しい思いをされないようにしている。お互いの居室を行き来しお話しして過ごされる事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には撮りためていた写真をアルバムにしてメッセージを添え「思いでアルバム」としてお渡ししている。6年前に風花で看取った利用者様のご家族は時折立ち寄って下さり、ご自分の健康状態の相談や利用者様の生前のお話をされ帰られている。何人かのご家族も、ご自分が所属するサークルに声をかけ毎年12月にクリスマスコンサートをして下さっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の普段の生活の中で出た言葉をケース記録やつぶやきシートに記入し、希望や思いを聞き逃さないようにしてケアプラン作成の際にアセスメントに本人の希望として書き込み参考にしていく。会話が困難になっても利用者様の表情や仕草から気持ちを汲み取るように努めている。新しく入った職員には、現任職員から一日の過ごし方や様子・好み等を伝え、関わりに活かせるようにしている。	入居時のアセスメント(フェースシート)の活用や、日常のかかわりの中での利用者の言葉や行動、表情、職員の気づきなどをつぶやきシートに記録し、ケース記録に日常生活の状況と共に、利用者のご事情は青色ペンで、介護計画に該当する内容はマーカーで線を引くなどして記入し、利用者一人一人の思いや意向の把握に努めている。コンサートに行きたいという利用者の思いにそえるよう理学療法士のリハビリを週2回、健康体操や歩行訓練を取り入れて思いの実現の支援をしている。困難な場合は職員間で話し合い本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に相談員やケアマネ等から生活歴やこれまでに利用されていたサービスについて知ることが出来る。ご家族からもこれまでの暮らし方、食べ物の好み、編み物や裁縫・野菜作り等得意とすることなど具体的に詳しく伺い、風花に入られてからの利用者様とのかかわり方の工夫に繋げ、速く馴染んで頂けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の心身のご様子や過ごし方をケース記録に記入し情報を共有している。食事量・水分量・排便や入浴の状況を生活記録表に記入することで一目で状況が分かるようにしている。また職員は業務に入る前に連絡帳や回覧に目を通し、業務に入ると直ぐに職員から様子の申し送りを受けている。3ヶ月毎にアセスメントを見直し、心身の状況を追記している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の心身の様子や言葉をつぶやきシートに書き、ケース記録に記入している。ケア会議やユニット会議で支援の方法を話し合っている。カンファレンスにはご家族が参加されご希望をお伺いすることでサービス内容に反映している。参加の難しいご家族には面会時や家族会・電話等で要望をお伺いしている。利用者様のご様子が変わられた場合は随時見直しを行っている。	カンファレンスは計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心、家族の参加を得て開催し、家族の意向、主治医や看護師、職員等の意見を参考にして話し合い介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、3ヶ月毎の見直しをしている他、利用者の要望や状態の変化に応じてその都度の見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に利用者様との言葉のやり取りやご様子を書き、生活記録表にはバイタル・食事量・排泄・入浴など体調全般を書くことで、介護計画作成時や見直し時に状況が分かりやすくしている。職員の気づきなどは連絡帳で確認し合っている。ケース記録は利用者様の言葉は青色のペン・介護計画に該当する内容にはマーカーで線を引き、ひとめで実践状況が分かるようにすることでモニタリングに役立て見直しをしている。個人連絡帳でも情報を共有できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎週水曜には、同法人の作業療法士が訪れてのリハビリ体操があり、利用者様は「今日は先生の日？」と聞かれ、楽しみに参加されている。協力医療機関の田中デンタルクリニックの往診を希望され口腔ケアや義歯の調整を受けておられる方がいる。他科受診の際ご家族から付添いの要望があった場合は、調整し職員が付き添っている。週に1回訪問看護や2週に1回の訪問診療と薬剤管理があり体調不良の早期対応や管理に努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	風花の行事には、地域の自治会、老人会、婦人会等の多くの方々の協力があり、苑内外の掃除や利用者様と会話、行事等に来られる機会が多く、顔見知りの方が増えたことから、利用者様は気兼ねなく楽しそうにお話されている。行事予定を「お知らせ新聞」でご案内することで、外出や地域の催しにボランティアの方やご家族の方が付添いで来て下さっている。文化会館でのコンサートや演劇などを見に行く等、出かける機会を作り楽しんで頂いている。地域の文化祭や運動会の案内もあり、踊りや福つき競技に参加される等して楽しまれている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1名の利用者様が昔からのかかりつけ医に受診されている。受診の時には、バイタルや食事量、日頃の様子を書いた生活記録表をコピーして渡し、様子を医師へ報告している。その他の利用者様は法人のクリニックをかかりつけ医とされ、定期的に受診し、採血・レントゲン・心電図等の検査を受けておられる。毎月、医師の所見を添えた健康票をご家族へ郵送している。定期受診が難しい利用者様は在宅総合診療を行っている。皮膚科、眼科等引き続き通院されている方もおられる。急変時にはご家族が来られるまで職員が付くなどの支援をしている。	事業所の協力医療機関をかかりつけ医とする場合は、月2回の訪問診療と週1回の訪問看護師の来訪がある。以前からのかかりつけ医の受診と他科受診は家族の協力を得て支援している。受診時には生活記録(バイタル等)をコピーして医師に渡している。受診結果は医師の所見を添えた健康診断書を毎月家族に送っている他、面会時や電話でも連絡している。職員は医療、薬物状況を連絡帳で共有している。緊急時には協力医療機関と連携して、適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日に訪問看護がある。訪問看護表に一週間の様子を記入し報告・相談している。24時間医療連携をとっており、オンコール体制がある。利用者様の体調の変化があった時にはすぐに報告・相談している。医師への報告や相談にも入ってもらっており、職員に指示内容や対処方法をわかりやすく伝えてもらっている。感染予防についてのアドバイスもある。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護・介護情報提供書を作成し、利用者様の様子や薬等についての情報を医療機関へ提供している。法人の地域連携室担当看護師と管理者が病院へ出向き情報提供や質問に答えている。入院中は面会に行きご家族からも電話で様子の報告がある。医療機関と退院に向けたカンファレンスもしており、スムーズに退院できるように支援している。居室は30日取り置きが出来るようになっている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護について指針をもとに風花勉強会をしている。契約時にもご家族へ指針についてお話し、早い段階から意向をお聞きしている。終末期に入られた利用者様のご家族には、医師からの説明があり話し合いの場を設けている。ご家族と医師・看護師・管理者が何度も話し合いの機会をつくり、意向を伺うことでご家族の気持ちを大切にしている。付き添いを希望されるご家族には、簡易ベッドや食事を準備し、最期の時を一緒に過ごせるように支援している。運営推進会議参加の皆様にも看取り介護について報告している。	契約時に「重度化及び看取りに関する指針」に基づいて事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族の意向を聞き、主治医、看護師、職員等と看取り、医療機関、他施設への移設等について、その都度話し合い、方針を決めて共有して取り組むこととしている。看取りのケアについて研修を実施してケアの充実を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	インシデント・アクシデント報告書を回覧しており、職員皆が利用者様の事故の経緯が把握できるようになっている。ユニット会議で利用者様の現状を話し合い、対応や解決策を考え全員で再発防止に努めている。また、急変時の対応について、誤嚥や窒息時の対応、心臓マッサージ、AED使用方法等を法人の勉強会や風花の勉強会で繰り返し学んでいる。法人内グループのリーダーが集まる会議があり、事例を報し合い事例がないグループも経緯を共有することで経験値を活かせるようにしている。服薬については手からこぼれて床に落ちる報告があったがスプーンを使うことで事故報告がなくなった。	事例が生じた場合は、ヒヤリハットや事故報告書にその日の職員間で改善策を検討して記録し、申し送り時に回覧し、共有している。月1回のユニット会議時に再検討し、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事故発生時に備えて、法人の普通救命講習や応急手当研修を受講している他、内部研修で事故発生及び再発防止、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ)、事故発生時の対応などを繰り返し訓練して、実践力を身につけている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の自治会とは災害時における協定書を結んでいる。年二回、防災訓練には必ず自治会やご家族も参加され職員と一緒に、消火器の使い方や誘導方法を練習し災害時に誰もが速やかに動けるように、繰り返し練習している。H27年度の目標達成計画に地域との連絡網作成をあげていた。運営推進会議で議題にあげお願いしたところ、出席して下さっている地域の方とご家族が中心となり、災害時における緊急連絡網を作成して下さり協力体制があつくなった。	年2回の夜間想定火災時の避難訓練(通報、消火訓練、避難誘導)を実施している。家族、自治会長の参加もあり、避難誘導、避難場所での見守り役等の協力を得ている。運営推進会議で検討し、作成した緊急時の連絡網には自治会長、民生委員、婦人会、老人会、30分ボランティア、家族等の加入があり、地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護、プライバシー保護のマニュアルがあり、風花の勉強会で学んでいる。法人の接遇研修へ繰り返し参加し挨拶の仕方や言葉遣いを学び、実践している。風花メールへの写真の掲載、居室の表札掲示の同意を得ている。トイレ介助時の職員の立ち位置やひざ掛け、入浴時の配慮についても気をつけている。	個人情報保護やプライバシー保護のマニュアルがあり、法人研修や内部研修で学び、職員は理解して、人格の尊重とプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報は管理し、守秘義務について遵守している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲物を勧める時、朝晩の服の着替えなどの時には、語尾に「どちらが良いですか?」と疑問符をつけるようにしており、押し付けや無理強いとしないようにしている。「何かしましょうか」と声を掛けて下さった時には一緒にシーツ交換や掃除、座って出来るお膳拭きや洗濯たみなど一緒に出来ることを見つけその時の気持ちに添えるようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの状態にあわせた起床や就寝となるように心掛けており、23時近くまでゆっくりテレビを見られ休まれる方もおられる。今どうしたらよいかわからない方には、その時のそぶりや話の様子から、職員が横についたり、利用者様と相席をお勧めして一緒に過ごせるように配慮している。自室で塗り絵や日記をつけたり、テレビを見ながら編み物をされる方もおられる。食事もその日の体調や本人の希望から居室ゆっくり召し上がることもある。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際は、利用者様と一緒に気候や季節に配慮しながら衣類に選ぶようにしている。外出の時には帽子やお気に入りのバックをもたれる等、お洒落して出かけていただけるように一緒に身支度をしている。誕生会など特別な日には、化粧もされご家族と一緒に祝いをしている。移動美容室が来る日をお知らせしており、利用の時には必ずご家族が付かれお気に入りの髪型にされる方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味噌汁作りや盛り付け等を一緒にしている。「自分のは自分でやります」とご飯を食べた後、食器を洗われる利用者様もおられる。職員も利用者様と同じテーブルで話をしながら食事をしており、食べたいものなどをさりげなく聞き取っている。厨房職員に協力してもらい、誕生日にご希望があった握りずしを食べて頂き喜んで下さった。地域の方も来て下さり季節のおやつ作りもしている。	法人の配食を利用し、三食の御飯と夕食の味噌汁は事業所でつくっている。事業所の畑で収穫した野菜を使って味噌汁をつくったり、形状の工夫や好きな物を一品つくっている。利用者は盛り付け、下膳、後片付け、台拭き、食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。職員は利用者と同じテーブルで同じ食事をしながらさりげなく介助をしている。誕生日は利用者の希望に応じてケーキの提供や利用者の好みに応じて一品料理の提供もしている。季節の行事食、月1回のおやつづくりにはボランティアの協力を得て、いぎの葉団子、台湾かき氷、お茶会、チョコレートパフェづくりをしている他、しそや梅、ヤマモモを使っているジュースづくりをしている。弁当を持参しての花見や職員との外食の他、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことのできる支援をしている。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がたてた献立を提供しており、バランスのとれた食事となっている。毎日の食事量、一日の水分量を記入し訪問看護の時に報告、体調管理に努めている。食事量が少ない利用者様に高カロリー食品やドリンクを勧めている。水分量が少ない利用者様には、職員全員が一目でわかるように水分チェックボードに記入し、こまめに飲物をすすめている。食べやすいように一口大にしたり、むせ込みのある利用者様にはトロミを付けお出ししている。体調に合わせて低蛋白ご飯をお出ししている利用者様もおられる。			
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後から就寝時の間で、義歯を預かり洗浄、消毒を行っている。食後に歯磨きの声掛けや、歯ブラシを準備をして横で見守りをしたり、ご自分で出来なくなられても歯ブラシやガーゼ等その方に合わせて口腔ケアの支援をしている。職員が代わって定期的に歯科医師、歯科衛生士の方がこられ口腔ケアや、必要に応じて治療、義歯の調整をされている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様一人ひとりの排泄のリズムやサインを把握しトイレ誘導を行っている。放尿がある利用者様もサインをつかむことでトイレのご案内ができるようになり、放尿がなくなっている。排便のリズムもつづやきシートに書き込みを始めてからパターンが分かり、せかせることなく時間をかけることでトイレで排泄が出来るようになった。尿量や利用者様の状況にあった紙オムツやパットも使い分け気持ちよく過ごせる支援をしている。	排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、言葉かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促す工夫として、毎朝、牛乳を飲むことや活動的に毎日を過ごすことで腸内活動が活発になるとの考えから、職員と一緒に家事や掃除をしたり、歩行器で廊下を往復したりと身体を動かす機会を作っている。リハ職員による健康体操も皆でしている。毎日、排便の有無をチェック表で確認し、自然排便がない時は内服などで排便コントロールを行っている。便座に座られた時にマッサージをすることもある。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	お風呂は毎日準備しており、「明るいうちに入りたい」「晩御飯を食べて入りたい」「寝る前に入りたい」と言う様々な希望があることから、14時～20時の間、利用者様の入りたい時間にあわせて入浴できるようにしている。季節によっては、ゆず湯や菖蒲湯など行い楽しみの一つとなるようにしている。せかさず、ゆったり入れるよう介助している。毎日、足浴の支援している方がいる。	入浴は毎日、「寝る前に入りたい」など、利用者一人ひとりの希望に合わせて14時から20時までの間にゆっくりと入浴できるように支援している。入浴したくないと言われた時には職員を交代したり、時間の変更、声かけの工夫、朝の入浴、法人の機械浴、家族の面会時の一緒の入浴などの工夫をしている。状態によってはシャワー浴、清拭、足浴の支援をしている。柚子湯や菖蒲湯などの気分転換など、一人ひとりに応じた入浴を楽しむことのできる支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝時間は決めておらず、利用者自身のペースに合わせている。眠くなるまでリビングで過ごされる利用者様や夕食後には自室でテレビを見ながら横になり、いつの間にか休まれる利用者様もおられる。昼食後、居室に戻られ横になられたり、和室やソファでゆっくりされる利用者様もおられるため、ひざ掛け等を用意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からはお薬情報が届き職員は薬について効能や副作用について確認出来ている。飲み込みが悪くなられた利用者様への情報を薬剤師に報告し薬の見直しにつなげている。予薬マニュアルがあり、利用者様の前で薬袋の名前の確認、飲み込まれるまでの見守りを行い、誤薬がないよう徹底している。処方情報は連絡帳に記入しており、業務に入る前に誰もが知ることが出来るようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意とされる編み物や縫い物が出来るようにしている。家族会や法人の展示会に向け、小玉アートや折り紙作品作り等こつこつと取り組まれる方もおられる。展示物を見られたご家族からハガキやお手紙が届き利用者様も喜ばれている。毎日、洗濯物干しや掃除、座ったまま出来るお膳拭きや、洗濯たたみ等を一緒にして下さる方がおられる。また、好きな塗り絵や折り紙・トランプやかるたなどを楽しんだり、囲碁を楽しまる方もおられる。	梅、しそ、ヤマモモのジュースづくり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、お膳拭き、下膳、食器洗い、掃除、野菜づくり、芋掘り、スイカ割り、季節の行事(餅つき、豆まき、七夕、クリスマス会、しめ縄づくり、門松づくりなど)、おやつづくり(いぎの葉団子、チョコレートパフェなど)、習字、カルタ、トランプ、編み物、折り紙、ぬり絵、計算、漢字ドリル、囲碁、将棋、体操(リハビリ)、足上げ、健康、ラジオ)、コンサート、演劇鑑賞、テレビ視聴、専門学生等の実習生との交流など、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換などの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は苑内の畑や庭・デッキにお誘いし、近所の神社へ散歩にも出かけている。行事や地域への外出予定をお知らせ新聞で、ご家族や地域のボランティアの方へ参加の声かけを行っている。お祭りや季節の花見学等もご家族が付き添いボランティアとして利用者様の見守りやお話し相手を一緒にして下さることで、ゆっくりと外出ができています。ソルジェンティコンサートや文化会館での演劇等にも出かけている。	事業所周辺や庭の散歩、買い物、地域の行事(市民運動会、夏祭り、お大師様参り、お雛様巡り、どんど焼き、花火大会、秋祭り、ふれあい祭り、寝太郎まつりなど)、花見(桜、バラ、紫陽花、紅葉、コスモスなど)、初詣、市の敬老会、コンサート、演劇鑑賞などの他、家族の協力を得ての夕食、外出、墓参り、法事や結婚式への参列、馴染みの店での誕生日会など、利用者の希望に添って外出出来るように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額、ご自分で持っておられる利用者様がおられるが、ほとんどの方がお小遣いとしてお預かりし管理をしている。行事で外出した際に買い物や飲食代として使用されている。また個人で買い物の要望があった時には、管理しているお金からお支払いをしてもらっている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ち遠方におられるご家族と連絡を取っている方もおられる。職員は電池残量をこまめに確認し必要に応じ充電などの支援をしている。風花玄関には公衆電話が設置しておりいつでも電話を掛けることができる。ご家族へ向けてポストカードへコメントを書かれた時には、職員がポストに投函している。ご家族から来たはがきをいつも大事に持ち歩き、手にとって繰り返し読まれている方もおられる。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	風花玄関にはご家族が趣味を活かして、ボランティアとして季節の花を飾ってくださっている。リビングや洗面所には利用者様と一緒に花を飾っている。リビングや廊下には絵画や観葉植物を置き雰囲気作りを工夫している。歩行器や車椅子が通りやすいように気配りして、お互いが上手く過ごせるようにテーブルやソファの配置を工夫している。お好みのソファに仲の良い方と座られお茶やコーヒーを楽しまれる方もおられる。	玄関は、飾り棚を置いて家族ボランティアのコーナーとして生花や手芸作品等を飾っている他、テーブルと椅子を配置し、家族の面会時や知人の来訪時に談話できるスペースとなっている。リビングのテレビの前の大小のソファや廊下の長いソファは利用者が思い思いに過ごせる居場所となっている。廊下には絵画が飾り、リビングは明るく開放的で畑や庭の様子が見渡せる。和室の部屋もあり、くつろげる居場所にもなっている。温度や湿度、換気、音などに配慮して、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには一人がけや三人がけのソファを用意し、利用者様が一緒に座りお話ししたりテレビを見たりと自由に過ごせるようにしている。和室で横になってお一人でくつろがれる方もおられる。風花の庭や門が見えるご自分の席があり、好んで座られている。談話室もあり、面会時にはゆっくりにお話できる空間となっている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族へ相談し、利用者様が自宅で使われていた馴染みの家具や寝具を持ってきて頂き部屋作りをしてもらっている。壁にはご家族との思い出の写真や絵を飾られている。猫好きな利用者様はベット周りにたくさんの猫グッズを置かれている。テレビを見ながら編み物されたりとおもいおもいに過ごしておられる。	テレビ、ベッド、ソファ、冷蔵庫、鏡台、仏壇、衣裳ケース、編み物道具、時計、ぬいぐるみなど、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族の写真、自分の作品(習字、折り紙、ぬり絵等)、ポスター、孫の作品、賞状、新聞記事などを飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット内はバリアフリーとなっており、段差はなく扉は引き戸となっている。共同トイレは車椅子や歩行器の方でも使用しやすいように広く設計されている。トイレの場所が分からない利用者様のためにトイレのドアに大きく張り紙をしたり、利用者様の居室の扉横に室名札を下げている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム風花

作成日: 平成 28 年 12 月 6 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	15	事故防止の取り組みとして、訓練や勉強会で事故発生時に備えているが、経験が短い職員もおり実践力に不安がある。	・全員が急変や事故発生時に備えて訓練を行い、不安がある職員へは訓練の機会を増やし実践力を身につけ利用者様の安全に努める。	・火災訓練は年二回開催。 ・急変時(転倒・行方不明)等はグループホーム勉強会で実施し、誤嚥窒息時の対応は応急手当研修に参加して初期対応を身につける。 ・防犯・火災・誤嚥時の対応は、不定期にグループ独自の訓練も実施し、リーダーがチェックを入れ確認する。	12ヶ月
2	3	自己評価は職員全員が取り組んでいるが、項目によっては、経験が少ない職員は理解できていないと思われる項目があることが分かった。理解できていないとサービスに繋がらないため、理解できることが必要。	・職員全員が自己評価項目が理解出来るようになる。	・自己評価の項目で分らない時は、リーダーがわかるまで説明する。 ・自己評価のまとめをリーダーとすることで理解に繋げる。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。